

湯浅年子 ゆあさねこ 物理學者、理學博士。明治四十一年十一月十一日東京生れ、昭和五十五年二月一日歿（一九九一—）。東京女子高等師範學校理科を経て、昭和九年東京文理科大學物理學科卒。十五年女性初の日佛交換學生としてコロージエ・ド・フランス原子核化學研究所に入り、ジヨリオ・キュリーリーの指導を受け、人工放射能物質の研究に従事。

二十一年終戦直前に歸國し母校東京女高師教授。二十四年再渡佛、のちフランス國を中央科學研究所名譽主任研究員。パリに歿。

著書に『科學への道』（昭和二十二年五月十日日本學藝社）、『フランスに思ふ』（昭和二十二年十一月二十日唯書房）、『パリ隨想』（昭和二十五年九月十五日弘文堂『アテネ文庫』）、『パリ隨想—らみぜ—る—ど—りゆりくす』（昭和四十八年六月二十一日みすず書房）、『続・パリ隨想—る—れいふん—ぐえ—る』（昭和五十二年九月五日みすず書房）等。譯書『ジヨリオ・キュリーリー遺稿集』（昭和二十六年十月法政大學出版社）がある。

